

プレスリリース資料

報道関係者各位

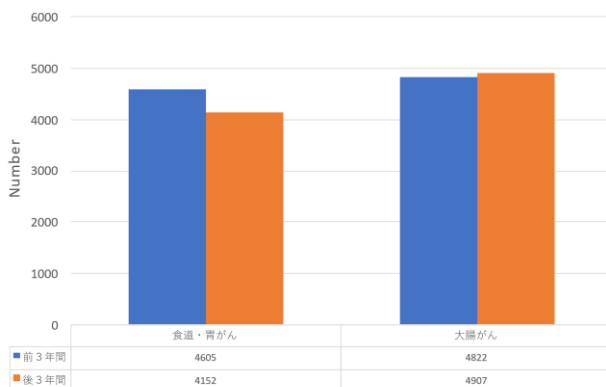
国立大学法人秋田大学

新型コロナ禍の消化器がん診断に及ぼした影響
—秋田県における新型コロナ禍3年目までの最終報告—

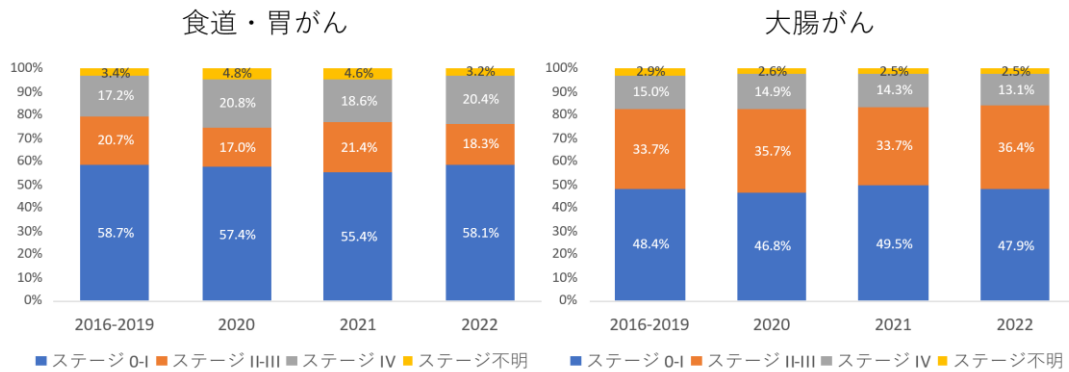
2020年から始まった新型コロナ禍の初期には、がん検診、内視鏡検査が全国一律に中断され、その結果、新型コロナ禍1年目(2020年)の全国集計でがんの診断件数が6万件減少し、未発見となったがんが、その後遅れて診断されてくることが懸念されました。がんの発育速度から考えて、がん診断の遅れが顕著に現れてくるのに数年かかることが予想され、新型コロナ禍2年目、3年目の発見がんの動向が世界的に注目されています。特に秋田県は食道がん、胃がん、大腸がんなどの消化管がんの死亡率がいずれも、長年、日本全国でワースト1-3位であることから、新型コロナ禍による検査中断の影響が最も顕著に出る地域と考えられ、秋田県での成績は本邦全体の動向を占ううえで重要です。

秋田大学消化器内科の飯島克則 教授の研究グループでは、秋田県で診断されるがんの80-90%をカバーする秋田県院内がん登録のデータを用いて、これまで秋田県における新型コロナ禍の消化器がん診断に及ぼす1年目、2年目の影響を報告してきました。今回、その最終報告として、新型コロナ禍が発生して3年目までのデータを集計し、秋田県における新型コロナ禍の消化管がん診断に及ぼした影響を全国に先駆けて報告しました。この研究成果は、国際医学誌『Tohoku Journal Experimental Medicine』での掲載に先立ち、2024年4月25日にオンライン公開されました。

秋田県における新型コロナ禍前(2017-2019年)、
後(2020-2022年)3年間の食道・胃がん、大腸
がんの総診断件数



秋田県における新型コロナ禍前後の診断された食道・胃がん、大腸がんのステージ割合の変化



秋田県では新型コロナ禍1年目に消化器がん検診(胃バリウム検査、便潜血検査)の件数が30%減少し、消化器内視鏡検査が15%減少し、これは全国の傾向と同様でした。大腸がんは、新型コロナ禍1年目で早期がんを中心に件数が減少しましたが、2年目には早期がんが増加し総数も回復しました。新型コロナ禍の前(2017-2019)と後(2020-2022)の3年間づつの診断された大腸がん総数の比較では、前が4822件、後が4907件で、新型コロナ禍後の診断件数が前のレベルに追いついたと考えられます。かつ、発見される大腸がんのステージの割合は新型コロナ禍前後で変化がなく(2017-2019年: stage I (48.4%), stage II-III (33.7%), stage IV (15.0%)、2020年: 46.8%, 35.7%, 14.9%、2021年: 49.5%, 33.7%, 14.3%、2022年: 47.9%, 36.4%, 13.1%)、新型コロナ禍による診断の遅れは確認されませんでした。

食道・胃がんは、もともとの減少傾向のため(特にヘリコバクター・ピロリ菌感染減少のための胃がんの減少)、新型コロナ禍後3年間の診断件数は減少したままですが(前4605件、後4152件)、発見されるがんのステージの割合はコロナ禍前後で変化は認めず(2017-2019年: stage I (58.7%), stage II-III (20.7%), stage IV (17.2%)、2020年: 57.2%, 17.0%, 20.8%、2021年: 55.4%, 21.4%, 18.6%、2022年: 58.1%, 18.3%, 20.4%)、新型コロナ禍による診断の遅れは確認されませんでした。

新型コロナ禍による消化器がん診断の遅れが全国的に懸念されてきましたが、その影響が最も顕著に出ると予想された秋田県において、そのような傾向は確認されませんでした。諸外国では、新型コロナ禍によるがん診断の遅れが現実のものとなっている地域があります。世界的にみて、本邦では、新型コロナ禍の初期段階での感染拡大状況が比較的軽かったこと、また、それによって内視鏡検査を含む検査体制が早期に復旧したことによって、少なくとも秋田県では消化器がん診断の遅れが食い止められ、本邦全体でも同様の可能性が高いと考えられます。今回の結果は、今後の感染症流行下でのがん診療体制維持のために重要なデータとなると考えられます。

論文

“A final report on the real impact of the COVID-19 Pandemic on the Diagnosis of Gastrointestinal Cancer in Akita Prefecture, Japan in 2022” *Tohoku J Exp Med* 2024 (in press)

Katsunori Iijima, Kenta Watanabe, Yosuke Shimodaira, Shigeto Koizumi, Sho Fukuda, Tatsuki Yoshida, Ryo Ookubo, Tamotsu Matsuhashi, Mario Jin, Masahito Miura, Hiroyuki Shibata